名大「豊田講堂」

レポートに何回も書いてきたが、退職後は名大中央図書館を毎日のように利用させてもらっている。

地下鉄・本山から坂道を歩いて 10 数分。行き帰りに歩くのに、ちょうど良い距離だ。暑い時期には日差しをさけて、行きの朝は東側、帰りの夕方は西側を歩くことが多い。途中の桃厳寺は癒しのスポットだ。健康にもよく、研究と生活のペースを持続させるうえでも、いまの私にとって名大図書館は大切な「インフラ」だ。

名大に着くと、いつも見上げるのが、写真の「豊田（とよだ）講堂」である。その前に広がる美しい芝生とともに、つい時計台に目が向く。道路をはさんで、庭園の南側に図書館がある。名大は広いキャンパスのほぼ中央に道路が通り、塀もなく開放感がある。豊田講堂の案内表示には次のように書かれている。

この講堂は、昭和 35（1960）年に、トヨタ自動車工業株式会社（現トヨタ自動車株式会社）から、教育の振興、科学の発展の一助となることを目的に寄贈されたもので、名古屋大学のシンボルとして広く親しまれています。

建物の名称は「発明家豊田佐吉翁を記念する意味で豊田講堂」としたことが記録に残されています。

また、建築家として著名な槇文彦氏の設計による初期の代表作でもあり、日本を代表するモダニズム建築のひとつとして、高く評価されています。

これまでに、創立 50 周年記念事業としての改修（平成２年)、時計台への青色 LED の組み込み（平成 13 年)、創立 70 周年記念事業としての改修・増築（平成 19 年）が、いずれも企業や同窓会の寄付によって実施され、現在に至っています。

（2015 年 10 月 11 日）